

第18回京都山城便教会

平成31年2月24日（日）

第18回京都山城便教会は、（旧）京都市立山王小学校で実施しました。参加者は10名。そのうちトイレ掃除に初めて参加された先生は3名。いつものように自己紹介をして、本日のテーマを伝えさせていただきました。本日のテーマは「捨てる」。「汚いな」という気持ちを捨てる、「無茶苦茶きれいにしてやろう」という気持ちを捨てる、人と比較することを捨てる。人それぞれによって、いろんな「捨てる」があると思いますが、どんな気付きがあるかを楽しみにしながら、トイレ掃除をスタートさせました。



案の定、初めて参加の先生方の中には、いきなり素手でトイレに触っていくまわりの方々にたじろぎ、尿こしを開けた際の臭いに顔をゆがめ、ここを本当にやるのかと不安になっておられました。最後の交流会で言われましたが、「まわりでみんながやっているのだから、やるしかない」と覚悟を決められ、取り組まれたトイレ掃除ですが、途中から頭は便器の中にすっぽりと入り、無我夢中で磨いておられる姿が印象的でした。



学校の掃除では「無言清掃をしましょう」とよく言います。しかし、本日の掃除では、無言掃除をすることは一言も言っていません。序盤は、初めての経験で、声はあがっていましたが、段々と声がなくなり、便器を磨く音だけが鳴り響きます。やる事が明確となり、それに集中すれば、勝手に無言になる。無言でやる事が目的ではない。こういった日常の学校の違和感にも気付くことができました。日常の当たり前を捨てるということも必要なのだと感じた瞬間でした。



会の後半になると、参加者の皆さんの動きが非常にスムーズになってきます。最初は、「こうしましょう」と言っていたのですが、途中から他の方の動きを見て、何も言わなくても自然に協力する体制ができあがっていました。壁や床の掃除、片付けも含め、皆さんが手際よく動いていただけるおかげで、会の雰囲気もピリッとした中に温かさが感じられました。そして先生方が担任されるクラスは、きっとこんな雰囲気なんだろうなと感じさせられました。



【参加者の感想】

- ・久しぶりの参加でした。生徒指導主任をやっていた頃、鍵山先生の本を読み、実践をくり返していたことを思い出す1日となりました。
- ・今日のテーマは「捨てる」だったので、終わってから自分の磨いた便器を見ませんでした。見てしまうと「これだけやった」と勘違いを起しそうなので、全体だけを見るようにしました。
- ・何を捨てるのか。今、学校で話題になる働き方改革のことなども浮かんできました。
- ・道具の使い方と生徒の見方に関するお話が非常に印象深かったです。使いやすい子どもばかり見ていなかったか、見つめ直す機会になりました。そして何かを越えた感覚が残っています。
- ・本物のトイレ掃除と出会い、今までやってきたことに変化が起きそうです。
- ・最初に臭いをかいで逃げたくなりましたが、まわりの皆さんが見本となり、やることができました。途中で子どもが入ってきたときに「ありがとうございます」と言われてすごく嬉しかったです。日常の中で、子ども達が掃除をしている時に、心から「ありがとう」が言えそうです。
- ・日頃使っていないトイレを磨くことで、その空間に魂が入る感じがありました。清々しい気持ちがありますが、自戒をこめて「良いことをしている時が一番危険」という言葉を思い出しました。
- ・整えることで、それが自分に返ってくることを日常の実践から感じていました。自分の心が整うと子どもの見方も整うように感じました。
- ・今年1年を振り返りながら、トイレ掃除をしました。今のクラスの子を思い出し、しんどいところに手を突っ込めてきたか考えました。卒業に向けて頑張りたいです。

2月もあと少しとなり、春の陽気を感じさせる気候の中、10名の先生方と本当に温かい時間を過ごさせていただきました。何かを捨てたことで、また新しい何かを感じられる、そんな循環を感じられる便教会となりました。次は5月に実施します。また皆さんとトイレ掃除ができることを楽しみにしています。

(小笹 大道)

